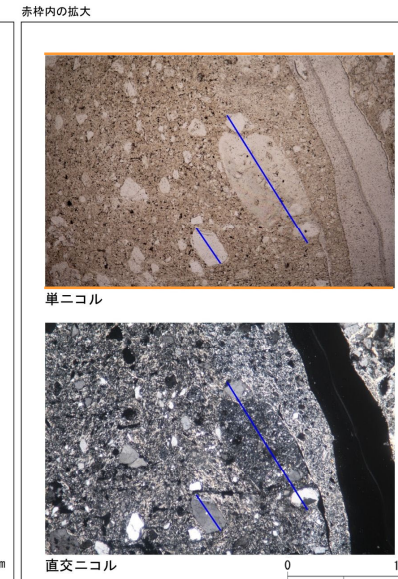
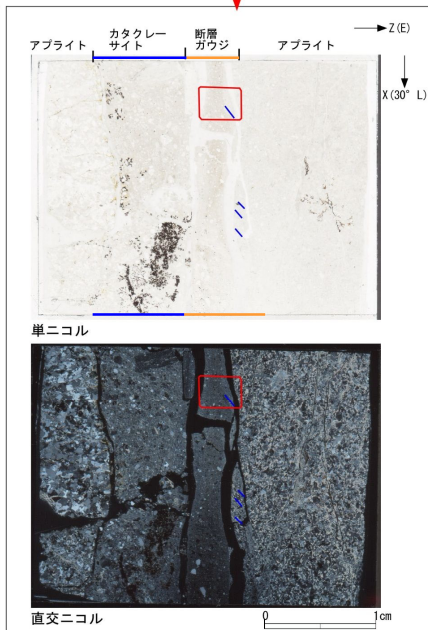
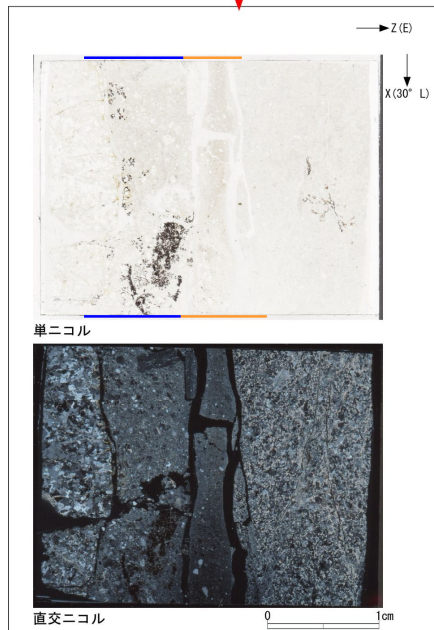
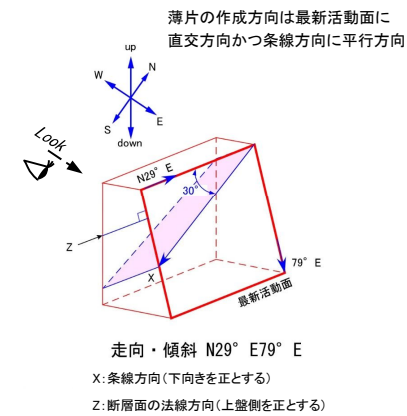
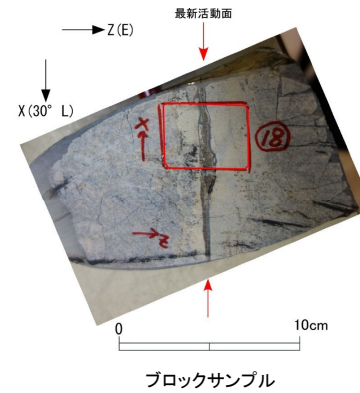
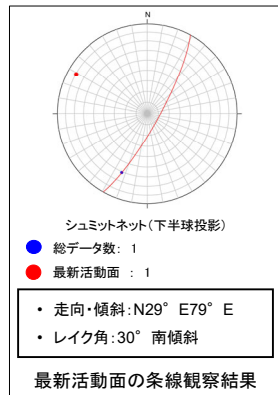


H27-B-1 深度118.94~119.12m D-41破碎帯 (1/2)

・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度119.10m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

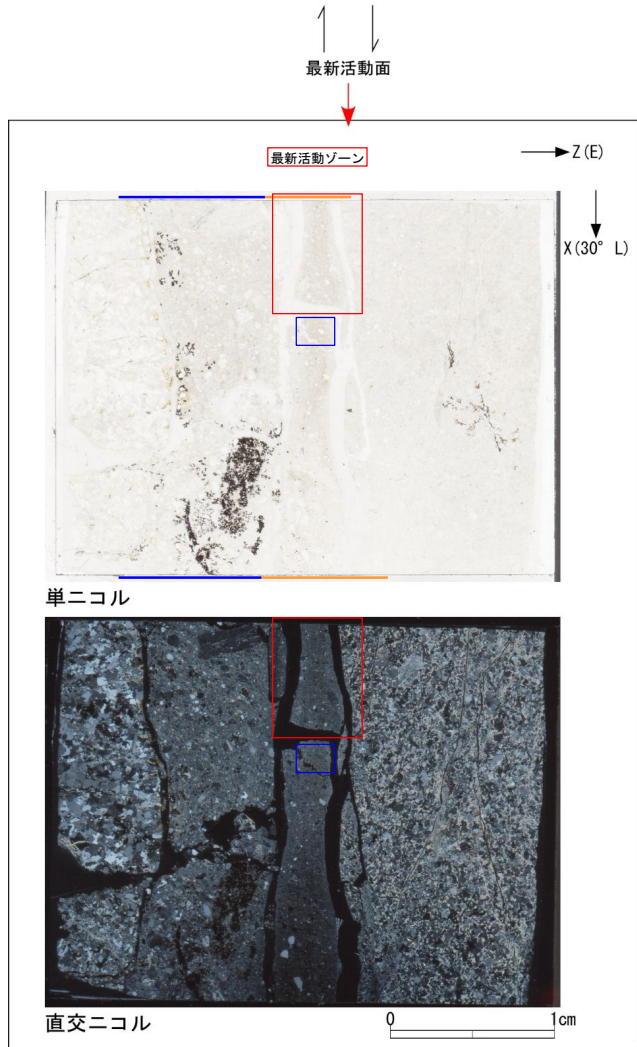
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。



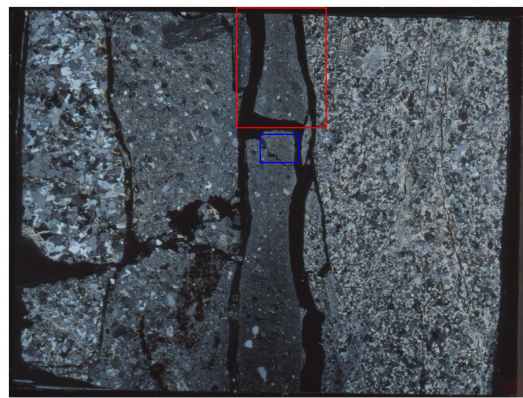
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-1 深度118.94~119.12m D-41破碎帯 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



単ニコル



直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

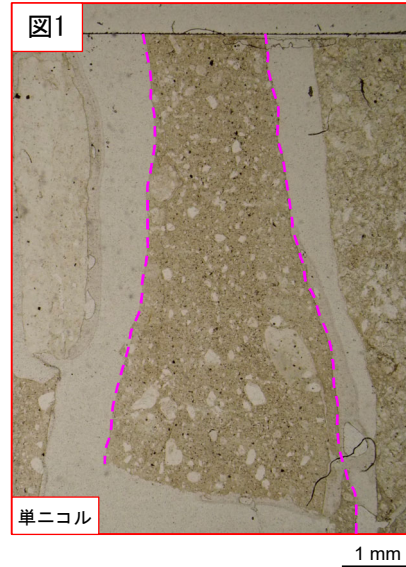


図1

単ニコル

1 mm

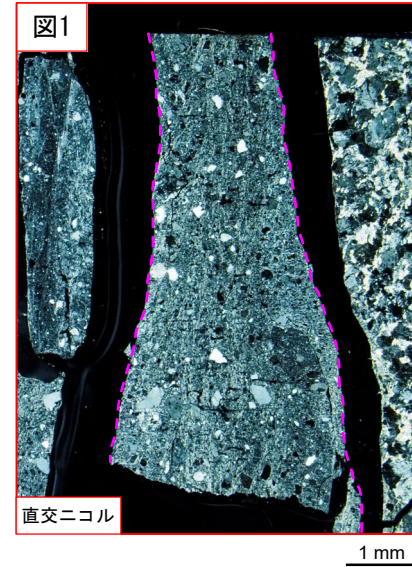


図1

直交ニコル

1 mm

破線は帯状で直線的な範囲を示す。

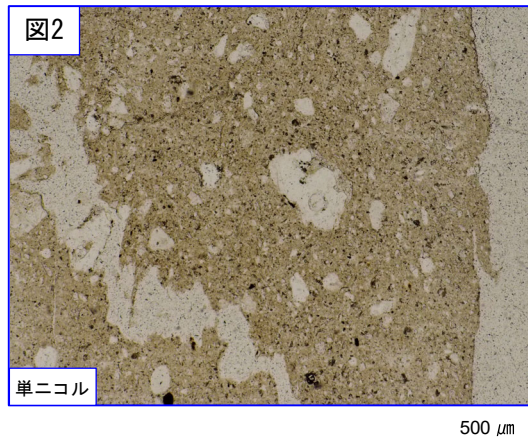


図2

単ニコル

500 μm

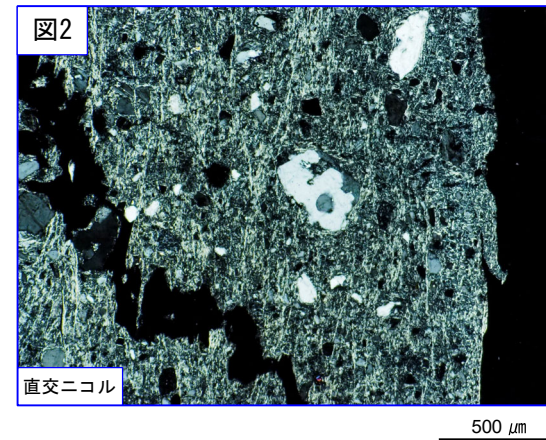


図2

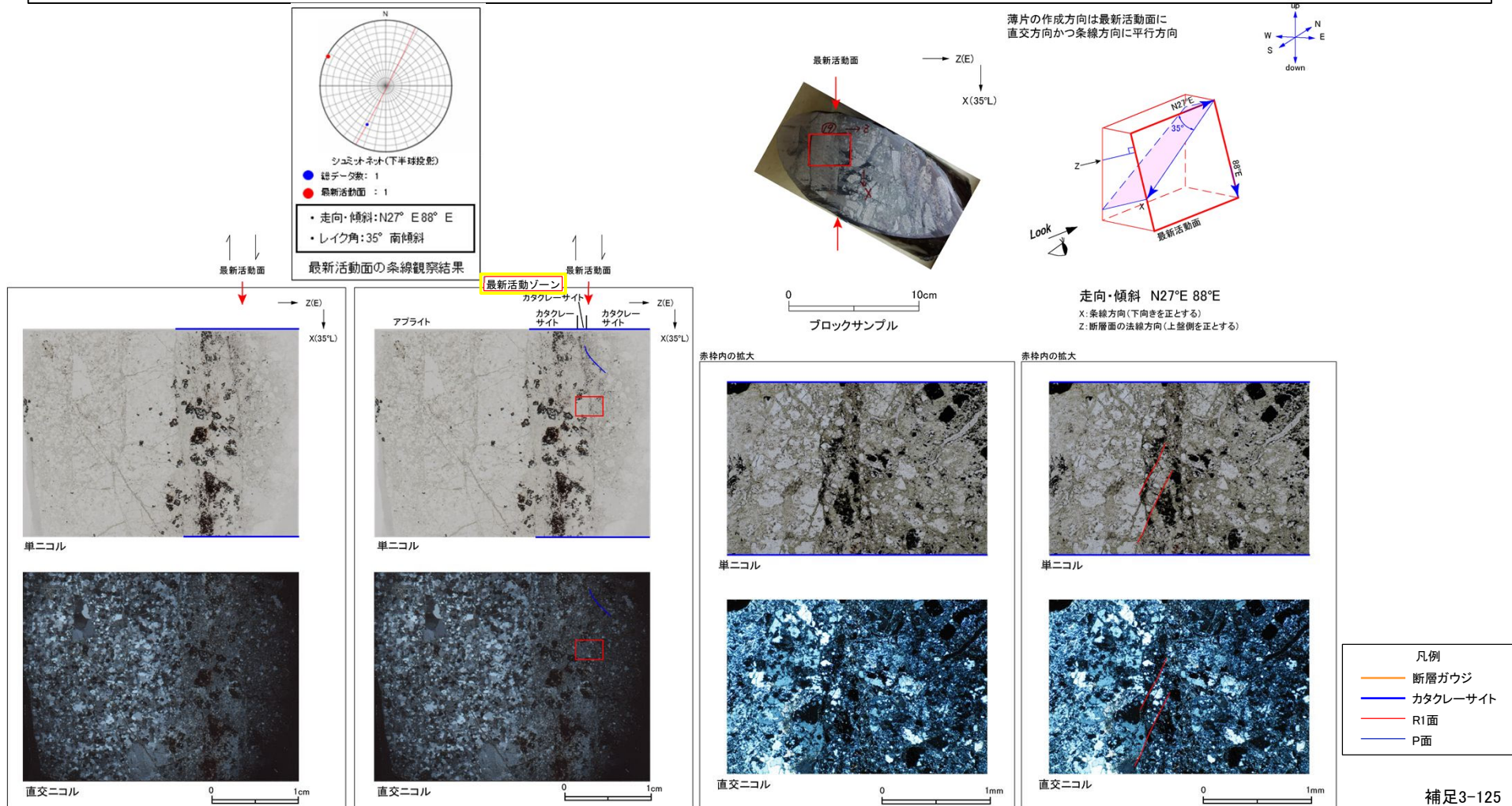
直交ニコル

500 μm

H27-B-1 深度139.82~139.88m D-42破碎帯 (1/2)

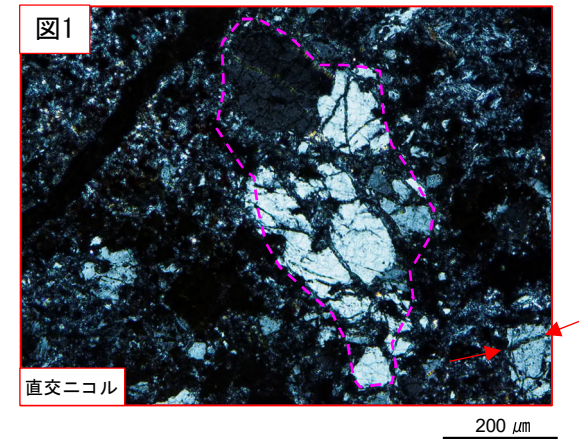
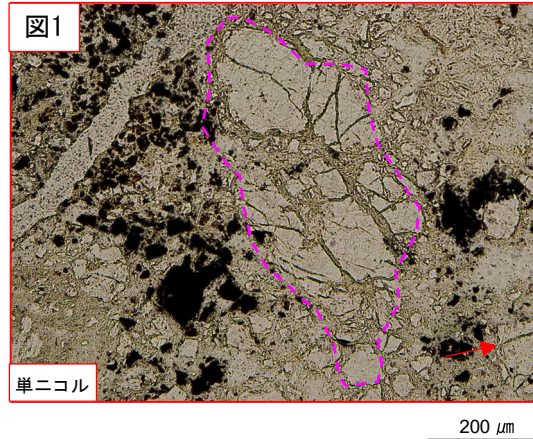
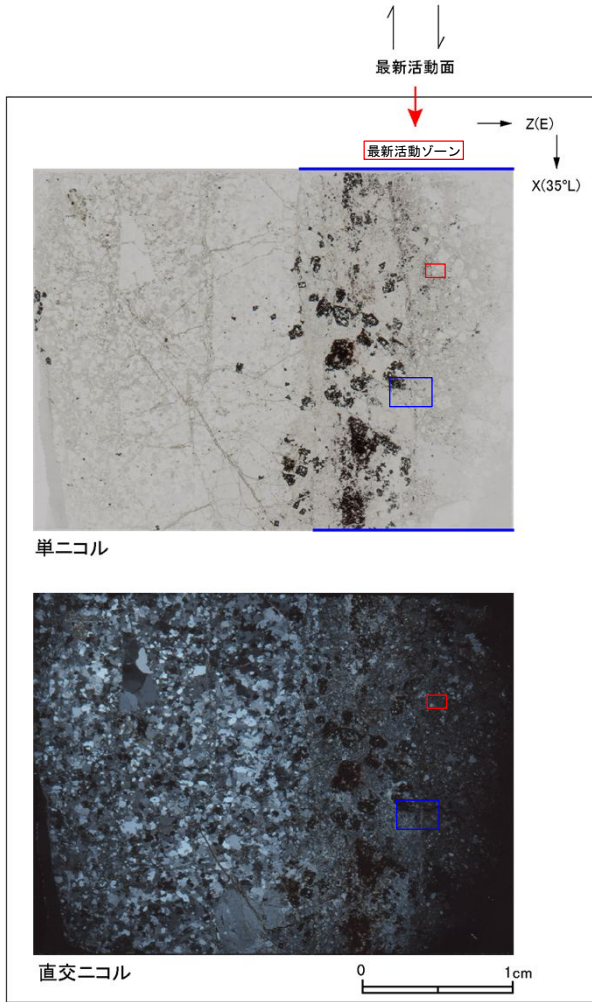
・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度139.82m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シグソー状の角礫群が認められる。

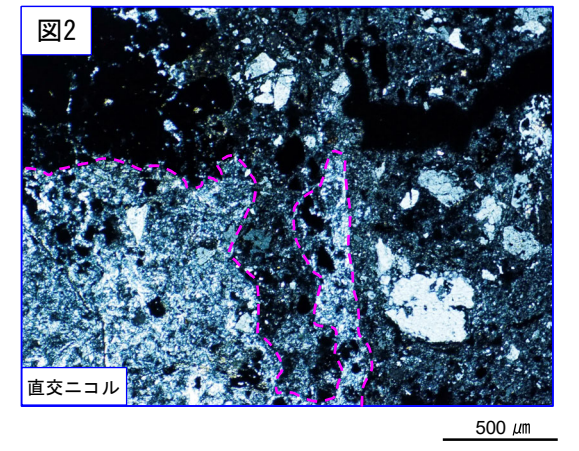
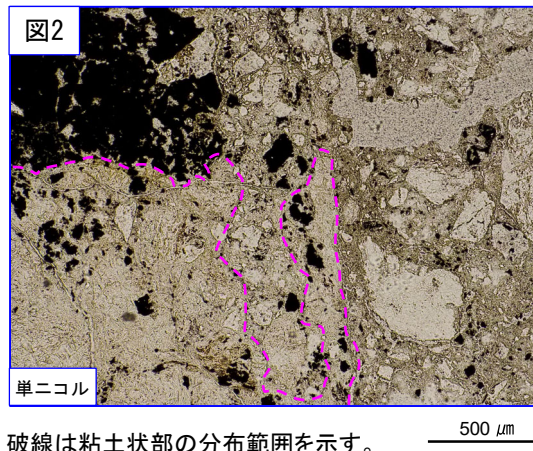


H27-B-1 深度139.82~139.88m D-42破碎帯 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。(図2)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図1, 2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図1)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図1)



破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



破線は粘土状部の分布範囲を示す。

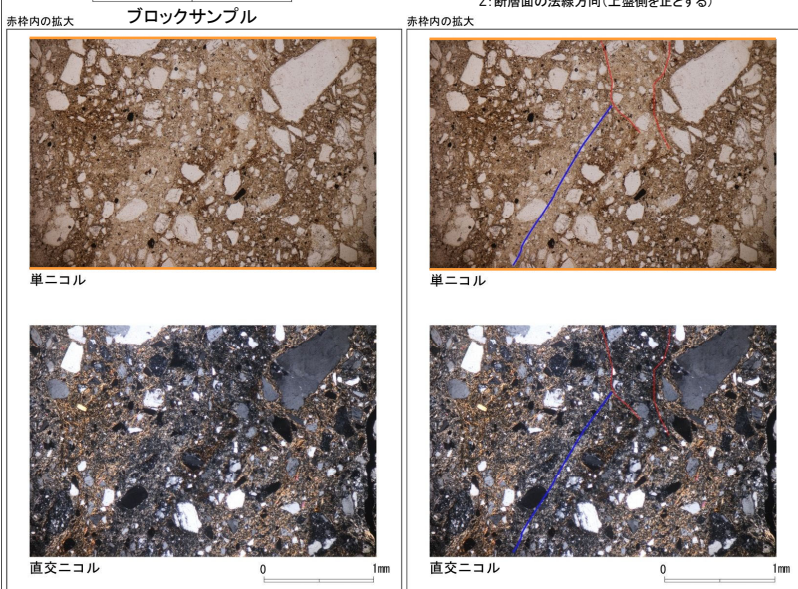
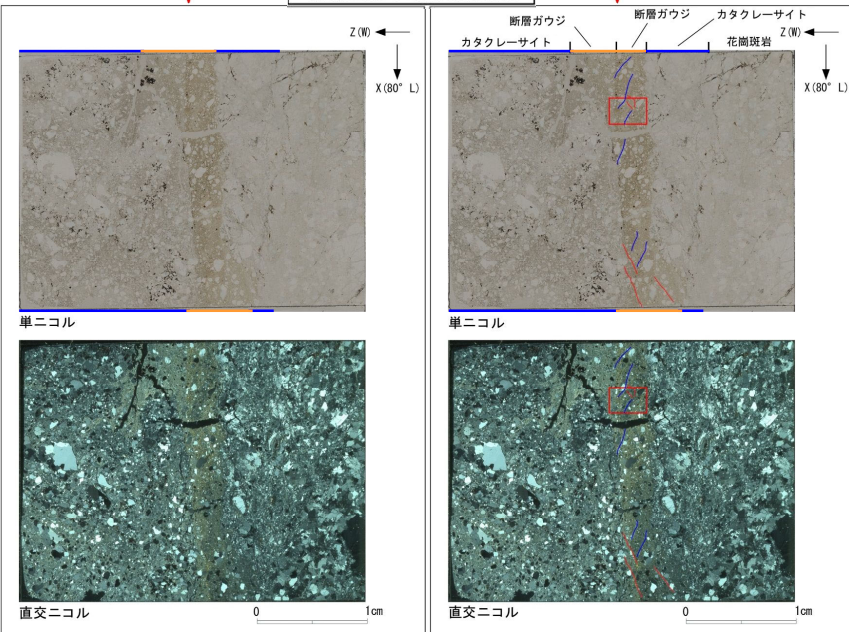
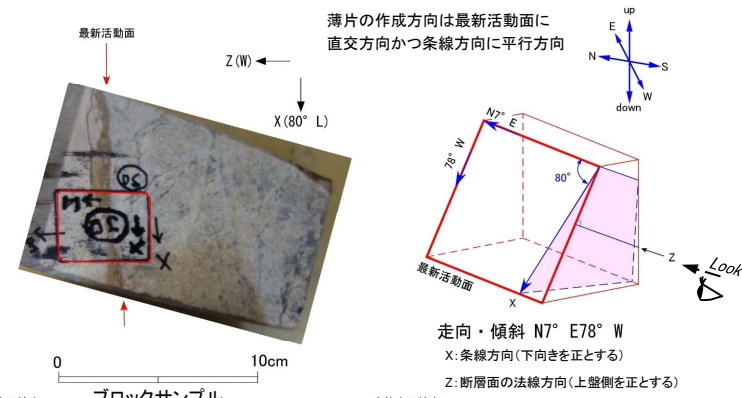
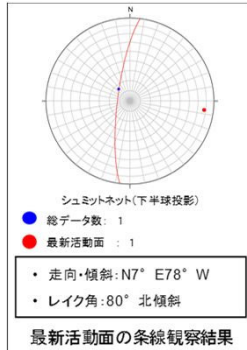
H27-B-2

余白

H27-B-2 深度31.15~31.66m 非モデル化破砕部 (1/2)

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度31.29m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シングソー状の角礫群が認められる。

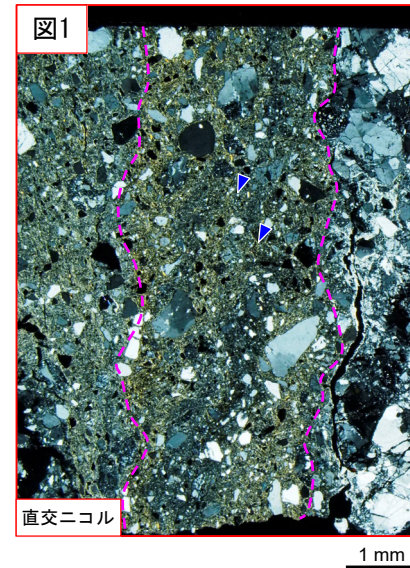
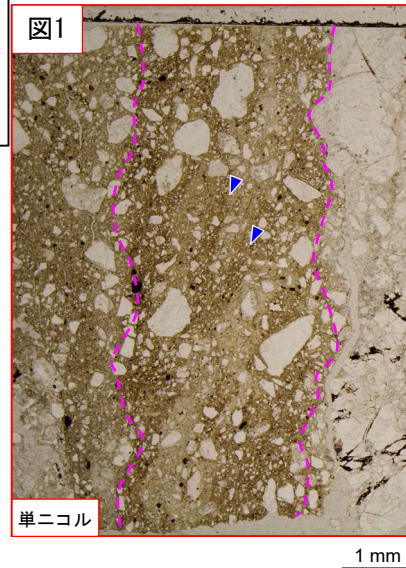
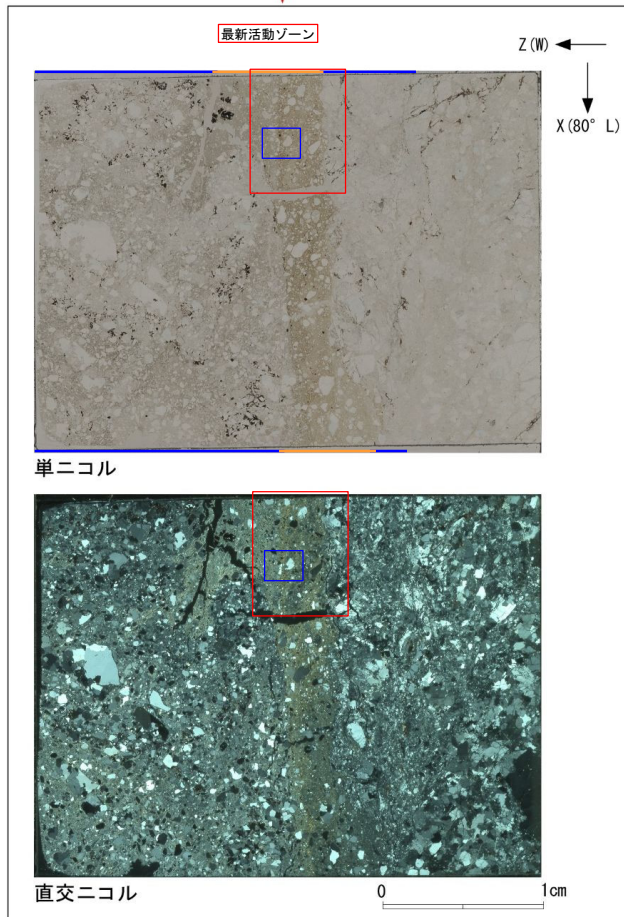


- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

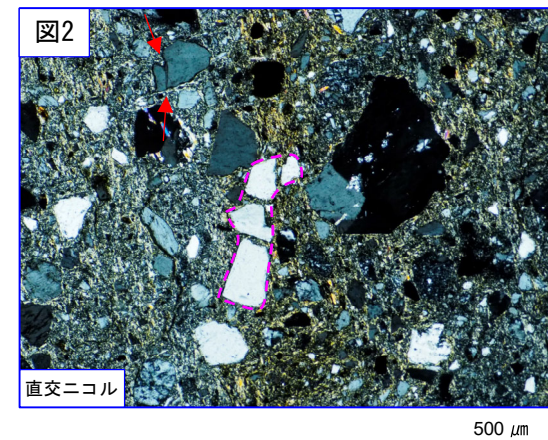
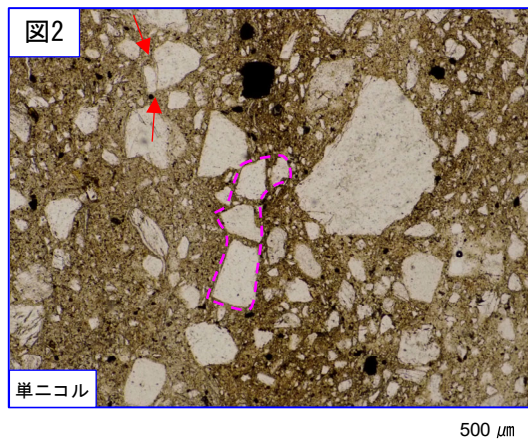
H27-B-2 深度31.15~31.66m 非モデル化破碎部 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図1)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 角ばった岩片が多い。(図1)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)

最新活動面



破線は帯状で直線的な範囲を示す。
青矢印の方向は粘土鉱物の配列方向を示す。



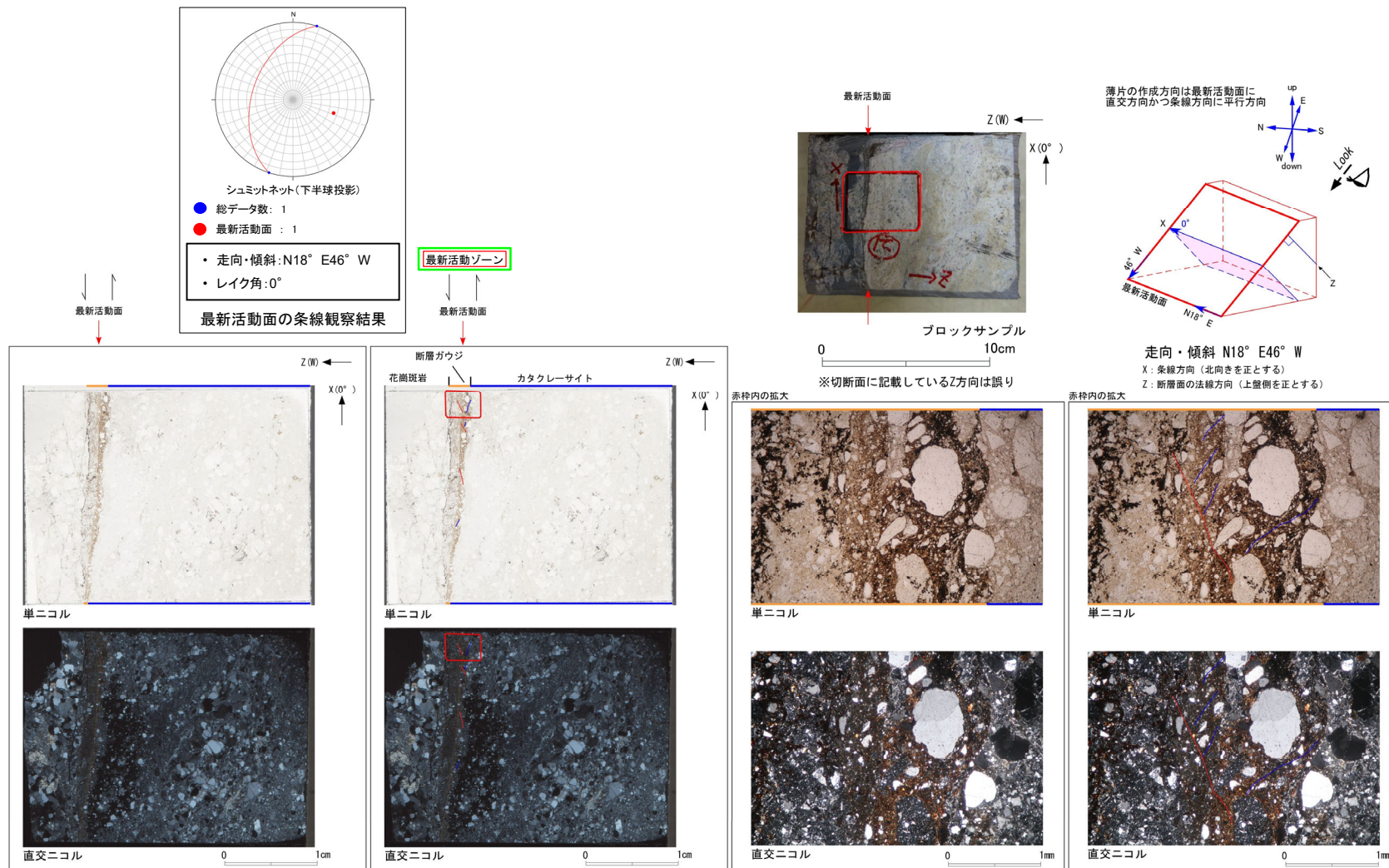
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。
赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト

H27-B-2 深度34.37~34.48m 非モデル化破碎部 (1/2)

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度34.37m)の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

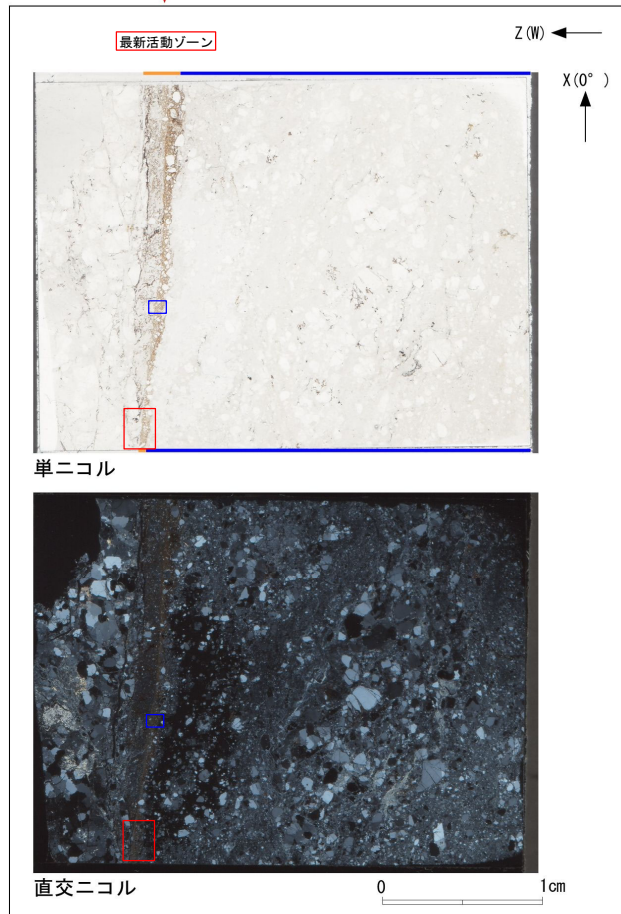
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。



H27-B-2 深度34.37~34.48m 非モデル化破碎部 (2/2)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)

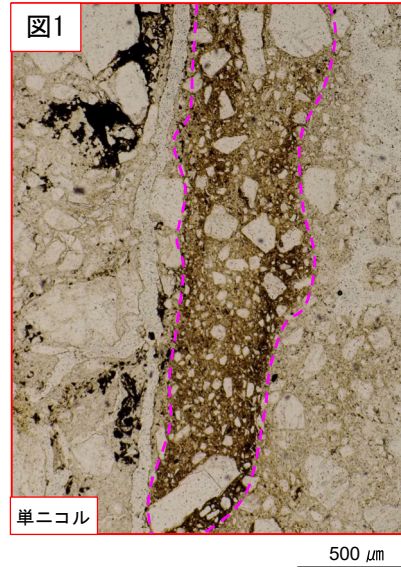
最新活動面



単ニコル

直交ニコル

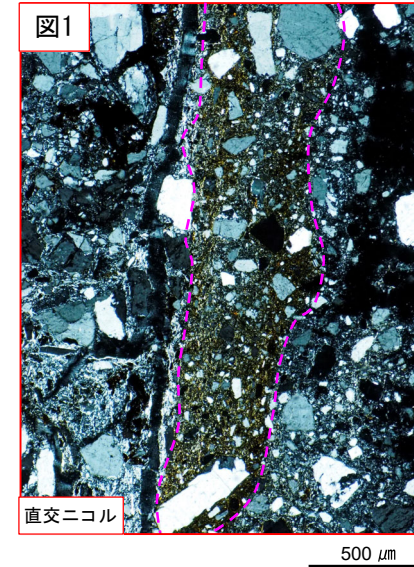
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



単ニコル

500 μm

破線は帯状で直線的な範囲を示す。



直交ニコル

500 μm

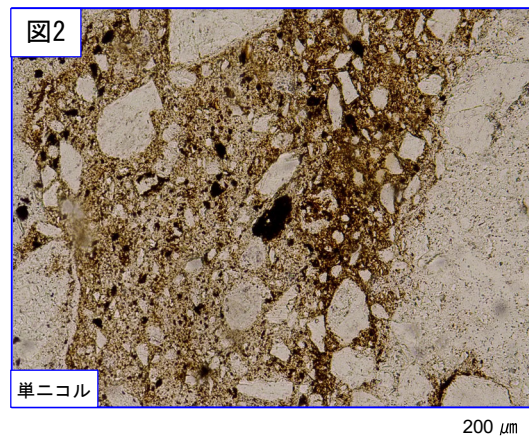


図2

単ニコル

200 μm

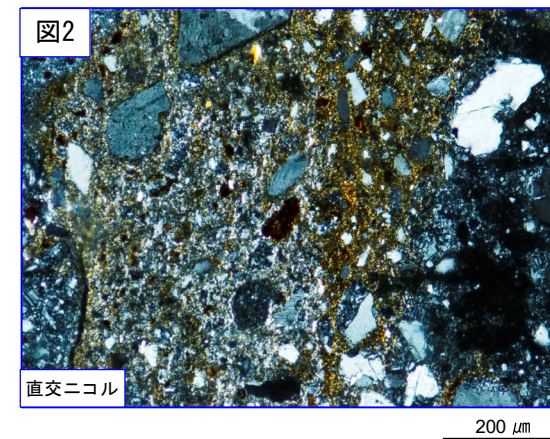


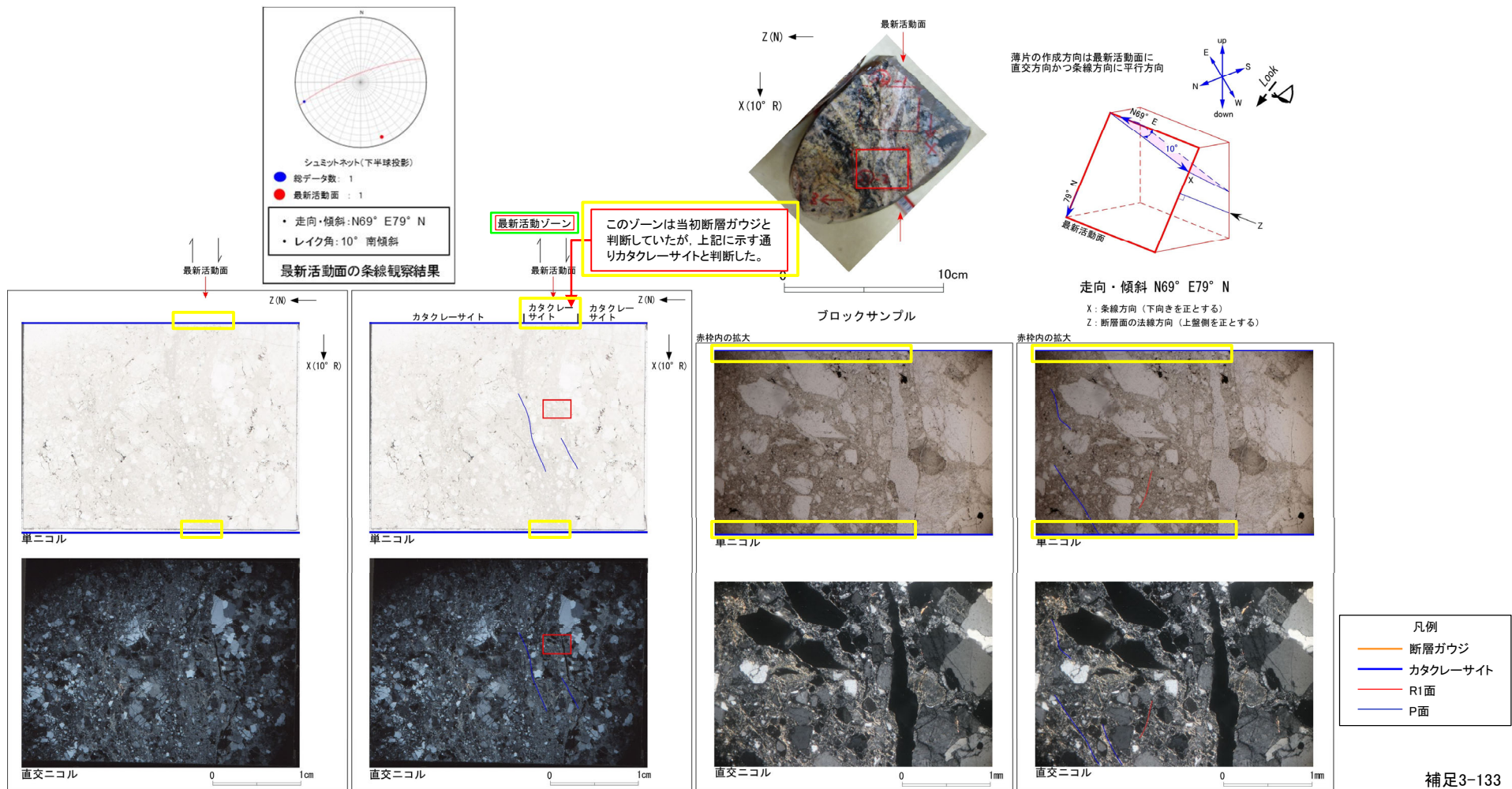
図2

直交ニコル

200 μm

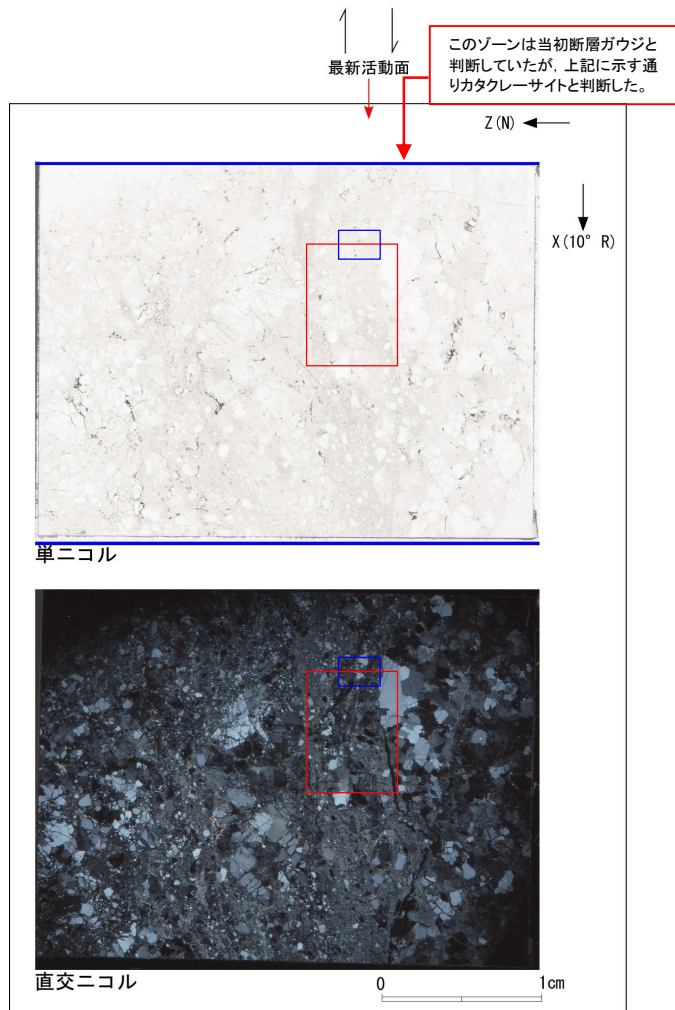
H27-B-2 深度35.36~35.46m 非モデル化破碎部 (1/2)

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.40m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・断層岩区分については、単ニコルで明瞭に区別できるゾーンのうち、最新活動ゾーンはより細粒であり、局所的ではあるが粘土鉱物が若干認められることから、断層ガウジと判断していた。(第833回 机上配布資料1)
- ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - 角ばった岩片が多い。
 - シグソー状の角礫群が認められる。

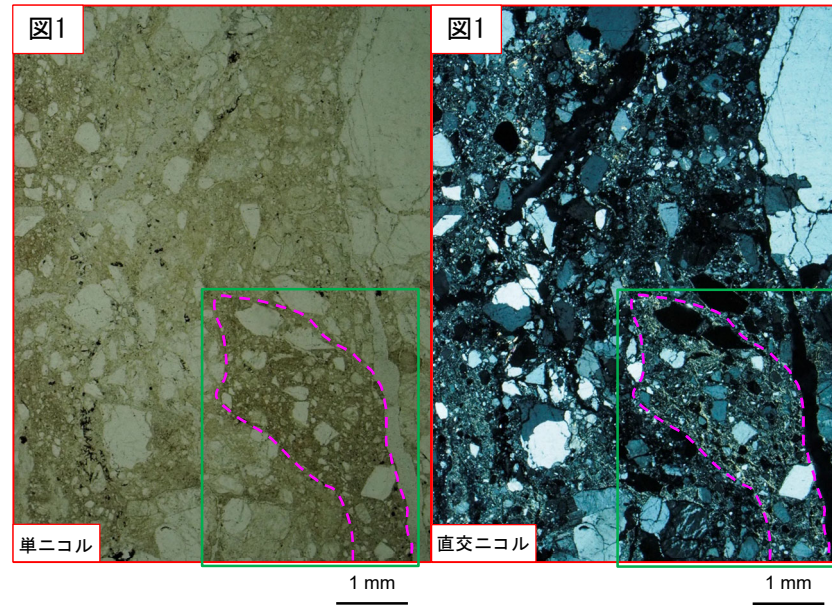


H27-B-2 深度35.36~35.46m 非モデル化破碎部(2/2)

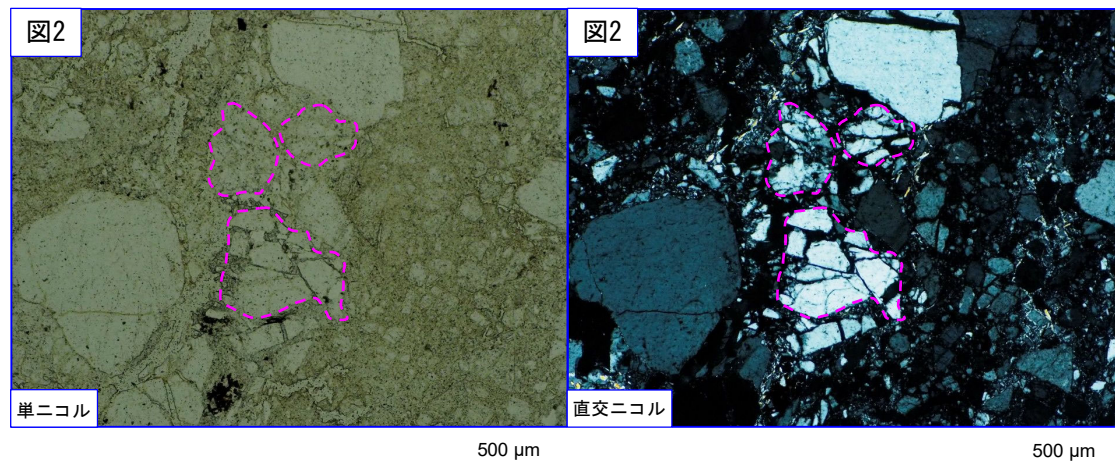
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
 - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。(図1)
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
 - 角ばった岩片が多い。(図2)
 - ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す。

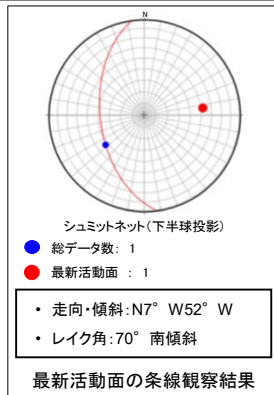


破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

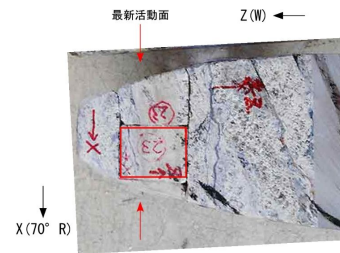
H27-B-2 深度35.68~35.73m 非モデル化破砕部 (1/3)

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.73m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層区別の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

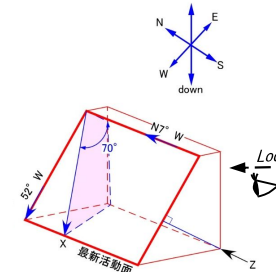


最新活動面の条線観察結果



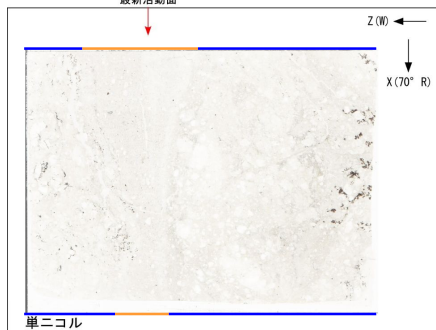
※切断面に記載しているZ方向は誤り。
ブロックサンプル

薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向

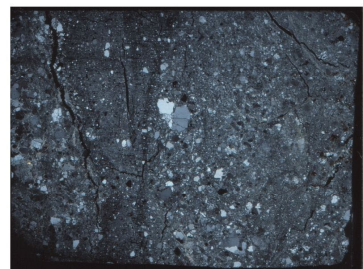


走向・傾斜 N7° W52° W
X:条線方向(下向きを正とする)

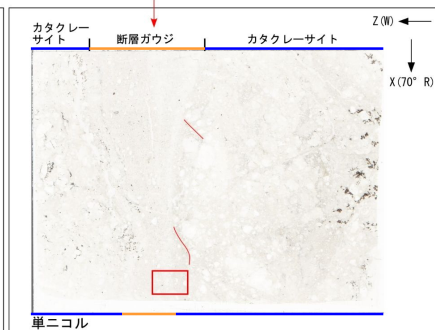
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)



単ニコル



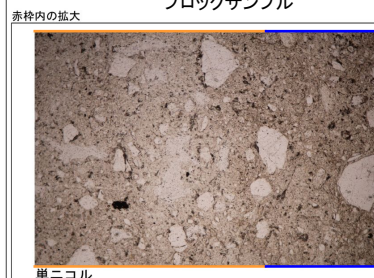
直交ニコル



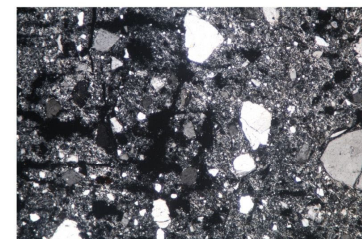
単ニコル



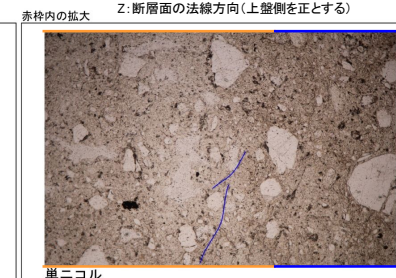
直交ニコル



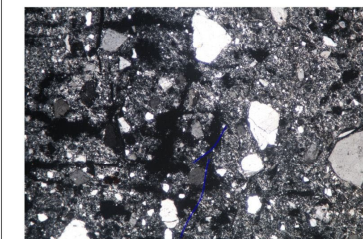
単ニコル



直交ニコル



単ニコル

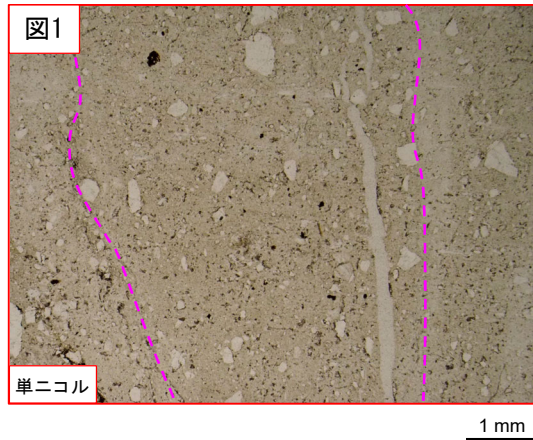
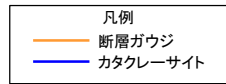


直交ニコル

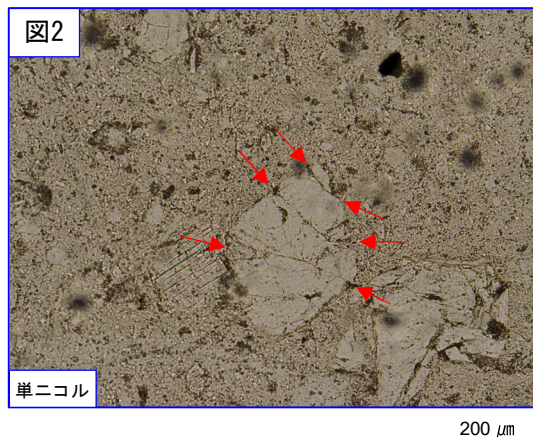
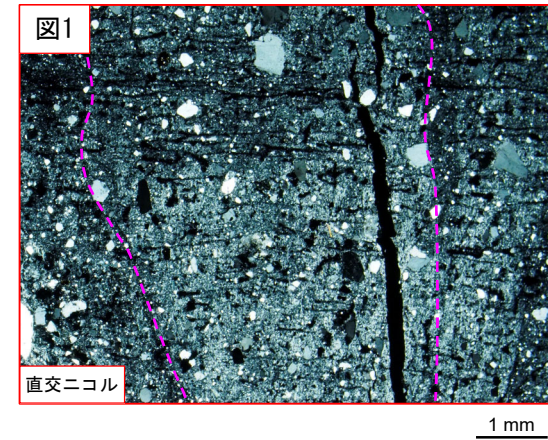
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-2 深度35.68~35.73m 非モデル化破碎部 (2/3)

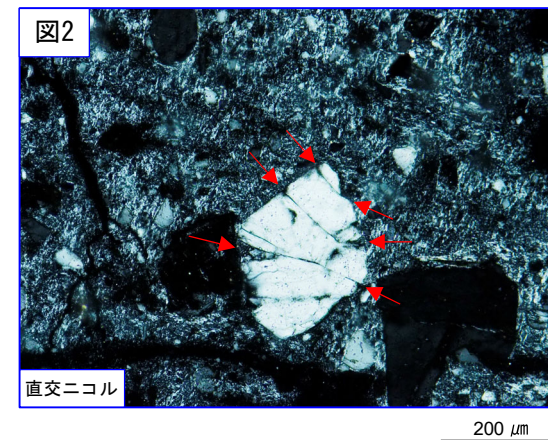
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)



破線は帯状で直線的な範囲を示す。

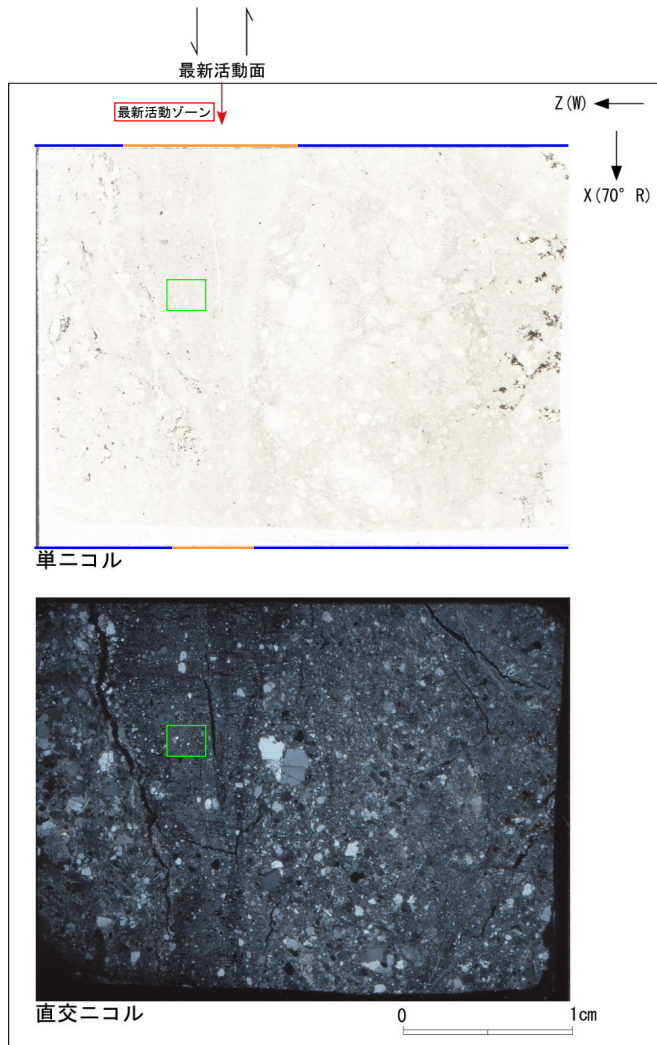


赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

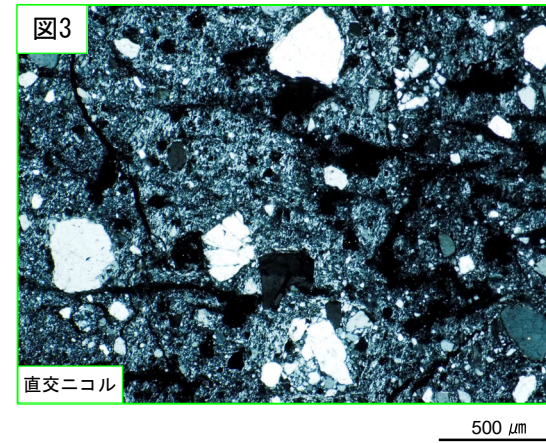
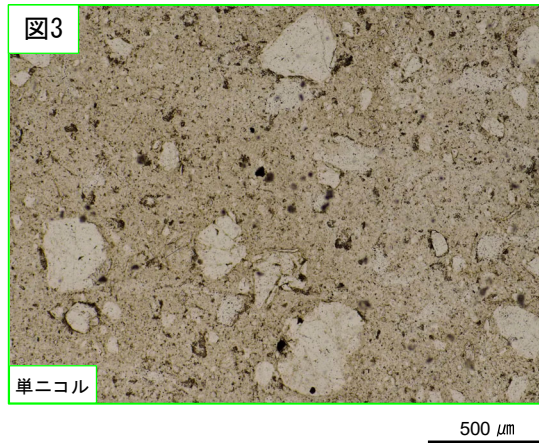


H27-B-2 深度35.68~35.73m 非モデル化破碎部 (3/3)

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 岩片は少ない。(図3)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)



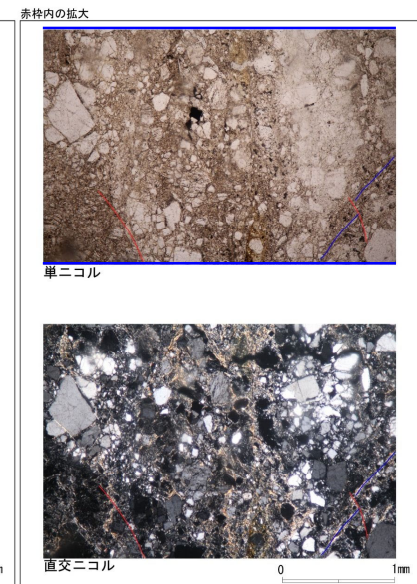
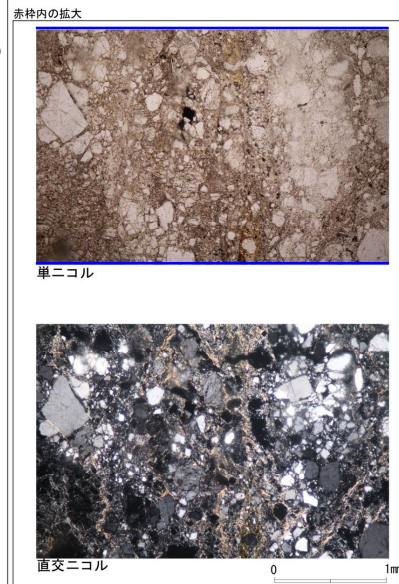
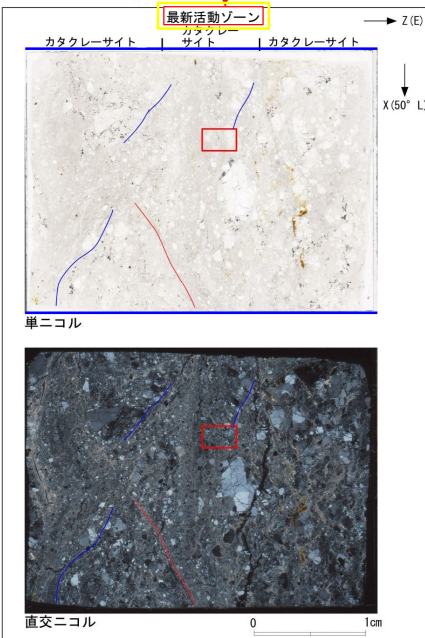
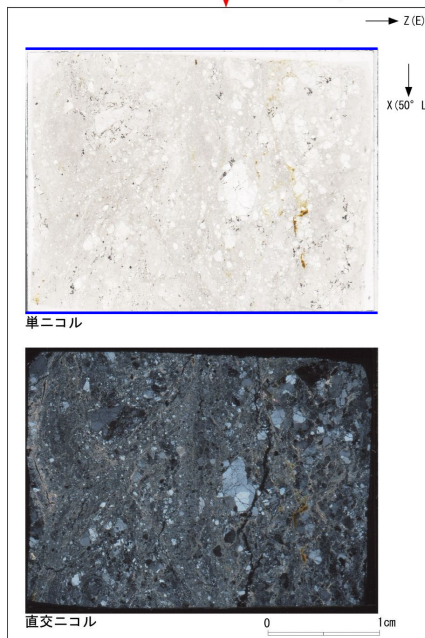
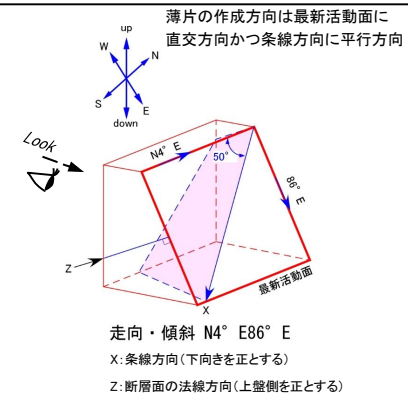
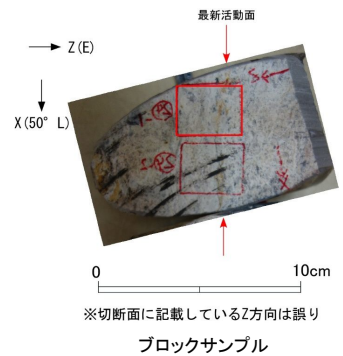
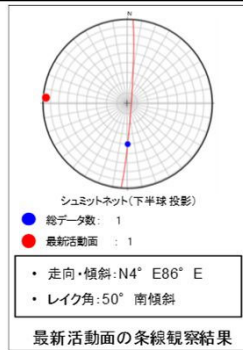
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



H27-B-2 深度35.92~35.95m 非モデル化破砕部 (1/3)

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.92m)の変位センスは、左ずれを伴う逆断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 組織は漸移的に変化する。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- シグソー状の角礫群が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面